

時々日報

2008年（平成20年）

8月11日
月曜日

いざ、染井へ

「染井吉野」の里

本紙特派員による現地取材



八月四日、現地は猛暑、いや、むしろ酷暑という名がふさわしい気候だった。午前九時半頃、JR駒込駅に到着。持っていた地図をたよりに、染井吉野発祥の地付近である染井霊園を目指す。陽炎が立つ中、必死に歩くも道に迷い遠回り。なんとか着いて写真をとろうとしたが、余計なものが移り込みそうなので回避。しかし、染井吉野の生みの親と考えられる伊藤征武さんのお墓（西福寺にある）には、勇気を振り絞ってシャッターを切った。



問題のうだる鳩

この方がいなければソメイヨシノは無かったのかあと感慨深かった。

続いて、染井吉野桜記念公園に向かった。ここでは、染井吉野誕生物語を激写。ついでにうだるような暑さを表現するべく、だれている鳩たちを撮影。本当に暑いらしく、水につかって出てこないものもいた。

駒込を後にして、次に向かったのは靖国神社。東京の桜の開花宣言に用いられる標準木を探した。広い境内には何本もの桜が植えられているが、標準木と標識が立てられている木がない！多くの木にプレートがつけられているものも、献木者の団体名で標準木は見つからない！いかめしい警備員のおじ

さんに尋ねると、親切に場所を教えてくれた。その木は、工事中の能楽堂の横に生えている標識のない桜だった。今はもちろん花はないが、立派な枝ぶりを写真におさめた。

職員のおばさんに聞くと、能楽堂に近い枝の花が、いつも初めに咲くらしい。

日頃の行いが良いのか、雨に振られること無く、無事に撮影が終了した。

焦げるような暑い日差しは、もしや太陽の熱烈なエールだったのかもしれない。でも、太陽やりすぎ。だれか太陽の出力を絞って来て？、と温暖化？を体感する撮影旅行であった。

【東京・中川】